

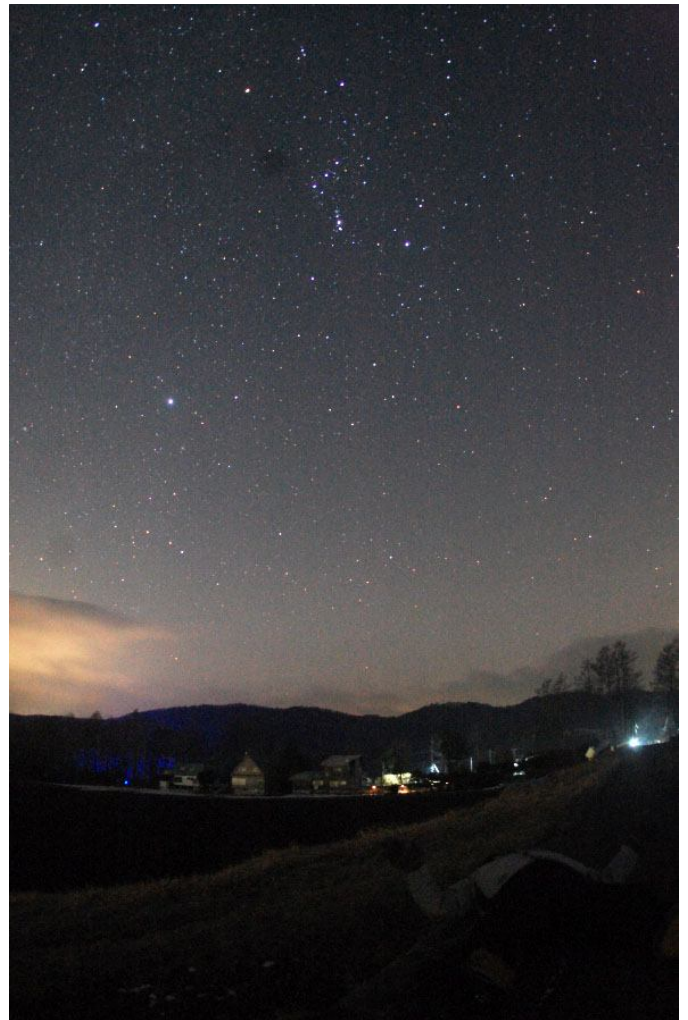
「寝転がって深宇宙を観る」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

開けた景色の中で星を観るには、地面に寝転がってしまうのが一番良い。ちょうど右の写真のような感じだ。北軽井沢には、高原野菜の畑の真ん中に、舗装された農道が通っている場所がいくらかでもある。農家や別荘とも遠く真っ暗な場所だ。夜間はまったく車も通らないので、天体観測には誠に適した場所と言える。

私はそういう場所まで車で出かけて、晴れた夜半に、防寒着を着こんで、道の真ん中に寝転んでしまう。地面の立って星を観るのところが、視界には空しか入ってこない。何百年も、或いは何万年も、何百万年もかけて地球に届いた恒星や星雲の光をじっと見ていると、圧倒的な孤独感に襲われる。

そうしたところで、宇宙人からのメッセージが聞こえるわけでもなく、宇宙の中に何故人間が存在しているのかという問いの答えが見つかるわけでもない。しかし自分の体の上にあるのは、地球の大気と、あとは深宇宙だけである。「宇宙に行く」ことの次に、「宇宙に近づく体験」ではないだろうか？



(下) 寝転がって見える深宇宙の星野 (せいや)

